

社会教育委員ニューズレター 第3号

発行 佐賀県社会教育委員連絡協議会
事務局 佐賀県民環境部まなび課内

県社教委連役員会

6月1日、県庁で開催した。

社教委連実践研修会については、「体験の風をおこそう」と2年間、佐賀県公民館連合会と合同開催してきたが、今後は社会教育委員としての方向性や目標、位置づけ、活動の推進に資するような研修会を単独開催すべきであるという意見が出た。なお、研修テーマ、講師については、今後検討することとなった。

全国社会教育委員連合総会

5月17日東京で開催された。

○文部科学省有松生涯学習政策局長挨拶
・学校がコミュニティスクールとしてどう変わっていくか。
・支援から連携・協働のパートナーへの変換が求められている。見守り等の個別活動から継続的な総合化・ネットワーク化へ、学校と地域のパ

ートナーづくりが重要だ。
・地域と学校が、同じ目的をもってともに子どもを育てる。
・社会教育法、地教法、免許法の一部改正を次期国会に提出することになっている。

○「組織存続に関する緊急提案」

一般社団法人全国社会教育委員連合の組織存続及び社会教育委員活動の活性化と社会教育振興を目的に委員個人に任意で、1口2000円の寄附をお願いする。

※寄附金についての協力依頼文書と振込用紙は、各市町あて委員さん分を送付している。

県社教委連総会・研修会

6月7日、県内市町社会教育委員や事務局の方等、約100名の参加を得て、平成28年度の総会・研修会を小城市のドウイング三日目で開催した。

○上野会長挨拶

地方創生の拠点として公民館の役

割が重要視されているが、昨年の12月21日に出席された中央教育審議会の3つの答申から、文科省は今年1月に「次世代の学校・地域」(馳プラン)を打ち出した。この中で社会教育に関係する課題は、社会教育サイドから地域学校支援というものをどういうふうにつくっていくことができるか？



総会の様子

学校だけではなく、地域の協力を得ることで学校運営がよりよくなるという見通しからコミュニティスクールが増えてきている。社会教育委員は教育委員と協力して学校支援のためどのような取組ができるのか？

審議中の社会教育主事の配置、役

割の検討について、常に時代は動いており、常に新しい時代に即応したようなものが求められている。研修会では社会教育委員の在り方、会議の仕方などを議論していきたい。

県内の社会教育委員就任期間
1期目・・・41.4%
2期目・・・32.5%

就任4年未満の社会教育委員が、全委員の3/4近くを占めている。

○基礎研修会

テーマ「社会教育委員が語る、社会教育委員を語る」

山口委員(唐津市社会教育委員)
田中委員(有田町社会教育委員)
武富主事(江北町教育課)
上野会長(コーディネーター)



基礎研修会登壇者

【会議の進め方事例】

山口：昨年基礎研修会を通して『社会教育委員の職務とは？』（社会教育に関する諸計画の立案、調査研究を通じた教育委員会の諮問など）を学び、昨年度の会議で今後の社会教育委員の在り方について議題に出した。社会教育委員として気付いたことを伝えていくこと、行政の立ち位置についても分かってきたので、社会教育委員が声を出して橋渡しの役割をしていくことが大事だとわかってきた。

田中：予算編成にかかる時期である11月と年度初め5月に開催している。各種団体の長（社会教育委員）は異動のため2年ほどで代わるので、1名の公募委員に学識経験者として参加してもらっている。

武富：社会教育委員の選出は、各関係団体から大抵会長が選出されるが、行政にものを言いたい人に出てきてほしい。会長という立場から言いにくいこともある。行政側から、『成果と課題』を提示すると委員の意見をたくさん聞くことができた。

【会場から】

小城市：社会教育委員は、人生を通して安全、安心、安定した生活を送れるための術、知恵を学ぶ、教えることが役割である。委員はクレーマーではない。助言者、顧問、相談者としていつでも相談してほしい。問題提起を委員の方からすることが大事。

唐津市：社会教育関係団体補助金・青少年体験活動推進補助金の算定方法について見直しを議題に挙げた。



質疑や意見交換

佐賀市：今年度、社会教育関係団体補助金の交付に関して意見を述べただけではなく、交付団体との意見交換を行い、団体の活動について

でも把握することとした。

【取り組むべき課題点（社教委へのメッセージ）】

山口：社会教育委員として笑顔ではじめの一步を踏み出してほしい。踏み出すと出会いと語り合う場が増え、後押ししてくれる人も出てくる。

社会教育の研修からたくさん学んで、社会教育委員が提言を作りたい。行政が作るのではなく、それを行政がサポートしていくということが理想。

田中：社会教育委員の会議の内容を各団体に持ち帰って話すシステムが出来ていない。

委員自身も各自の団体の中で積極的に話し合っ課題意識を持って、社会教育委員の会議に参加してほしい。

武富：これまでは、社会教育委員に何か言われると思って、目をそむけてきた場面もなかったわけではないが、今後は相談役（アドバイザー）だと思って、意見を出しやすいように会議の進め方を考えていきたい。

委員の意見をつぶさないように、一緒に作り上げていきたいと思います。

いう姿勢でやっていきたい。

上野会長のまとめ：行政と社会教育委員が協力して、地域の社会教育の未来をつくる語りの場を作っていくことが社会教育委員の役割だとわかった。今回の研修でたくさんヒントがあった、それぞれの市町で社会教育委員の会議を充実させてほしい。

また、参加者から、左記のような紙上意見もあった。

課題・悩み・困りごと

「社会教育委員について」

○毎年、新人の集まり・充て職で何をしてよいか理解が進まない。議論が盛り上がらない。

○年2〜3回の会議では、社会教育委員としての活動が判らず、ただ市町事務局からの呼び掛けに参加するだけである。

○社会教育委員の提案・意見が市町の事業に反映されにくい。そのため、自分たちの存在意義が見出せず、会議に出てこなくなった委員もいる。

「事務局として」

○合併後は行政規模が大きくなり、地域が求めている社会教育行政がど

ういうものか図りかねている。
○会議は、事務局から出された市町の事業に対する意見聴取のみである。
○委員の多くが団体代表の充て職のため、委員活動期間に大きな幅があり、また意識の差も大きい。

第46回九州ブロック社会教育研究大会

育研究大会（福岡大会）

○期 日 11月10日(木)～11日(金)

○会 場 福岡国際会議場

○テーマ 人・地域を動かす社会教育
育く学びから育みへ 地域を高めよう

○第1分科会 「青少年教育」

○第2分科会 「家庭教育」

○第3分科会 「地域づくり」

事例発表①人材育成（唐津市子育て支援情報センター長・山口ひろみ唐津市社会教育委員）

○第4分科会 「社会教育施設・関係団体」

○記念鼎談 「社会教育における『学び』は、どう活かされているのか」

※今回は、隣県福岡市での開催です。2日間通しては無理でも、分科会だけでも、あるいは全体会だけでも参加してみませんか。

長崎県社会教育研究大会

7月7日、長崎市で開催された同大会に参加した。

○問題提起 「自ら考え、行動する社会教育委員を目指して」

長崎県教育庁生涯学習課職員

○実践発表 「つながる事が大切だったく子育てママと社会教育との出会い」

長崎県公募社会教育委員

○長崎県社教委連会長による総括

社会教育委員は、自分ができる時に、できる場所で、できることをや

っていこう。社会教育委員の中には、何をしたらよいか、何をすべきかわ

からないで、また市町村事務局から説明も受けないまま、社会教育委員

になっていく人もいる。学ぶ機会を作

っていくことが大事だ。社会教育法第15条により、教育委員会から委

嘱されて社会教育委員になっている。教育委員に社会教育や社会教育委員

の活動を報告するのは当然のことである。重要性を認識してもらおう。

事務局も、行政の迫認委員ではなく、社会教育応援団として活動してくれ

る人を選任することが大事である。

○分科会（第2分科会）

テーマ「学校・家庭・地域の連携・協働による次世代を担う人材の育成について考える」

事例発表『心豊かでたくましい子どもを育む』く社会教育における『放課後子ども教室』『土曜学習』の実践を通してく 西海市教育委員会職員

(1) 放課後子ども教室

内容 宿題、名文暗唱(学校課題)、

自分から挑戦する活動(パズル、

お手玉、けん玉、折り紙、トラン

プ等) 学校側の要望に応じて内容は学習がメインとなっている。

(2) 土曜学習

内容 英会話、ふるさと体験発見

○協議

(1) 子どもたちをどう育てたいか。

・家庭との連携が重要、子どもの貧

困対策について、子どもに自信を持

たせるような教育が大事、といった意見が出た。

・事例 時津町では寺子屋実施。対象は塾に通っておらず、基礎学力が

不足する児童。年間20日程度開催。

算数中心。指導者(退職した教員、

民生委員等)を地域の人にするこ

とが大事。教員以外の人から学ぶこ

とで交流が生まれる。

(2) 連携・協働には何が重要か。

・子どもたち自身が、スマホやゲームの普及でコミュニケーション力が低下しているので、放課後事業が重要である。もっと拡大して地域の人との交流を進めるべき。後継者(指導者等スタッフ)不足。なんでも大人の敷いたレールに子どもを体験させるのが良いとは思わない。子ども自身が自分で開拓していくことも重要、といった意見が出た。

○「事業による子どもの変容」について、参加者から質問があったが、直接の回答はなかった。

○子ども対象事業では、親の参加を求める場面を良く見かける。親が3

関わらないのは、本当に良くない

ことなのか。親の負担増が子ども

の参加を減少させ更なる子どもの

体験格差が拡大するのではないか。

市町社会教育主管課訪問

県まなび課では、県内市町訪問を実施している。

社会教育委員の会議の開催状況を聞き、いくつかの市町の会議傍聴をお願いしている。

(1)社会教育委員

○市町別設置及び構成状況

(平成28年5月1日現在)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	佐賀市	唐津市	鳥栖市	多久市	伊万里市	武雄市	鹿島市	小城市	嬉野市	神埼市	吉野ヶ里町
設置委員数	12	12	13	9	10	12	9	12	9	10	9
公募委員(内数)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会教育委員専任	12	8	13	9	4	9	0	12	4	10	0
公民館運営審議会委員との兼任	0	4	0	0	6	3	9	0	5	0	9
任期(年)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計	平均
	基山町	上峰町	みやき町	玄海町	有田町	大町	江北町	白石町	太良町		
設置委員数	10	8	9	9	8	9	8	8	6	192	9.6
公募委員(内数)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0.15
社会教育委員専任	0	8	7	0	0	0	0	0	0	96	4.8
公民館運営審議会委員との兼任	10	0	2	9	8	9	8	8	6	96	4.8
任期(年)	2	2	2	1	2	2	2	2	1	-	-

○平成27年度活動実績及び内容

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	佐賀市	唐津市	鳥栖市	多久市	伊万里市	武雄市	鹿島市	小城市	嬉野市	神埼市	吉野ヶ里町
年間会議回数	5	1	2	2	1	2	2	4	2	2	3
教育委員会からの議題提出件数	8	2	4	6	3	7	5	6	4	4	7
委員からの議題提出件数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
青少年教育の特定事項委嘱委員数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計	平均
	基山町	上峰町	みやき町	玄海町	有田町	大町	江北町	白石町	太良町		
年間会議回数	3	1	1	3	2	1	1	3	3	44	2.2
教育委員会からの議題提出件数	12	1	1	6	8	2	2	9	6	103	5.15
委員からの議題提出件数	9	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0.5
青少年教育の特定事項委嘱委員数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0